

第1章 日本文化のあけぼの

2 農耕社会の成立

(1) 弥生文化の成立 … 弥生時代 (B. C. 4C~A. D. 3C)

※ B. C. = before Christ

A. D. = Anno Domini = in the year of Our Lord

① 背景

中国大陸での農耕社会の成立と鉄器の使用開始

…殷 (B. C. 16~B. C. 11C) ・周 (?~B. C. 770/B. C. 256)

・農耕 … B. C. 6500~5500年頃 → 農耕社会の成立

黄河流域で畑作(アワ・キビ)開始、長江下流域で稲作開始

・鉄器 … B. C. 6C頃(春秋・戦国時代)…鉄器の実用化 → 農業生産力の発展

→ 春秋・戦国時代 (B. C. 770~B. C. 403~B. C. 221)

→ 統一国家の形成 秦 (B. C. 221~B. C. 206) 漢 (B. C. 202~A. D. 8)

② 展開

i 成立 … B. C. 4C初め頃 西日本に成立

ii 伝播 … 九州北部~東北地方 … 食料生産段階へ

※ 北海道 … 続縄文文化→(7C以降)擦文文化 南西諸島…貝塚文化

= 食料採取の継続 = 弥生文化は成立せず

iii 特徴

☆大陸からの技術

・水稻耕作 … B. C. 5~4C 縄文晩期九州北部で開始(菜畑、板付遺跡の水田跡)

・金属器の使用 … 青銅器(→青銅製祭器)・鉄器(→武器、工具、農具=実用品)

・機織技術

・大陸系磨製石器 (石斧・石包丁など)

☆縄文文化の変化

・打製石器・磨製石器・竪穴住居

・弥生土器 発見: 1884年 東京本郷弥生町向ヶ岡貝塚 高温・赤褐色・薄手
特徴: 甕(煮炊き)・壺(貯蔵)・高杯(盛付)

③ 弥生文化 = 大陸文化 (←新モンゴロイドの渡来) + 縄文文化

・新モンゴロイドの渡来 →大陸・半島の新文化(水稻耕作・金属器生産・機織技術)

↳ 長身長、面長、顔の起伏少ない

・縄文人 → 縄文文化の伝統(土器製作・磨製石器・竪穴住居)

↳ 低身長、幅広く四角い、堀が深い

(2) 弥生人の生活

① 農耕の発達

- i 田地 … 湿田（排水施設）⇒ 乾田の開発（排水・灌漑施設）→生産性の向上
- ii 耕作 … 磨製石器による木製農具（木鍬・木鋤）田下駄 の製作
⇒ 鉄製工具による木製農具の製作・鉄の刃先を持つ農具の普及
- iii 播種 … 直播き ⇒ 苗代・田植え
- iv 収穫 … 石包丁（穂首刈り）⇒ 徐々に根刈り
- v 脱穀 … 木臼・竪杵
- vi 貯蔵 … 穂のままで高床倉庫・貯蔵穴へ
- vii ブタの飼育、狩猟・漁労も盛ん

② 生活の変化

- i 衣 … 獣の毛皮の他、織物技術の伝来により布を用いるようになる
- ii 食 … 農耕の開始により食料採取から食料生産へ

But 日本の場合特殊。

自然の厳しいヨーロッパなどの地域では、「自然は克服しコントロールするもの」と考え植物性の食料も動物性の食料も生産するようになった（「農耕」と「牧畜」の成立）

しかし日本の場合、水稻耕作などの植物性の食糧生産は発展するものの、本格的な動物の飼育・食料化は見られず、動物性の食料については、明治時代になるまで基本的に狩猟・漁労による獲得に依存していた（「農耕」は成立するが「牧畜」は未成立）。

日本人は、狩猟や運搬や農作業やペットなど、生活のパートナーとなった動物には固有の名前を付けたが自然界にいて食料とした獣は大雑把にシシ（四肢）と呼んだ（猪も鹿もシシと読みますね…）。日本人は「人間と自然は共存するもの」と考え、自然を畏れ、敬い、豊か自然の恩恵を神に感謝しながら生きてきたのでしょ。

- iii 住 … 集落は戦争への備え

住居 … 竪穴住居が一般的、高床倉庫・平地式建物も

環濠集落 … 濠・土塁をめぐらす(唐古・鍵、板付、吉野ケ里遺跡など)

高地性集落 … 中期～後期 瀬戸内海沿岸に形成(紫雲出山遺跡など)

高地性集落は瀬戸内海沿いの農業生産には適さない100m～350mほどの尾根や山腹に多く見られる。紫雲出山遺跡は標高352mという農業には適さない場所にあり、石鎌も発見されていることから、軍事的意味合いを持つ集落であったと考えられる。

このことから弥生時代の西日本は（1 安定した 2 不安定な）政情であったことがうかがえる。（1安定or2不安定の理由は？）



(小野忠昭「高地性集落跡の研究」による)

iv 墓制 ※弥生人は棺を用い、墓地を作った

a 墓地

- ・共同墓地 … 土壙墓・木棺墓・箱式石棺墓 ← 伸展葬が多い
- ・九州北部 … 甕棺墓、朝鮮系の支石墓
- ・東日本 … (初期)再葬墓もある

b 墳丘墓の出現 … 盛り土・周囲の溝

- ・方形周溝墓 … 低い墳丘、周囲に溝 → 各地に見られる
- ・大型の墳丘墓 … 弥生後期に西日本に出現(楯築墳丘墓・四隅突出型墳丘墓)

c 墓制から見える社会

多量の副葬品を持つ墓(甕棺墓・大規模墳丘墓)の出現
→ 貧富差・身分差の発生 → 支配者の出現

v 祭祀

a 豊かな収穫の祈願と感謝

b 青銅製祭器 … 祭器を共通にするいくつかの地域圏の出現

銅鐸…近畿地方中心に分布

平形銅剣…瀬戸内海中部中心に分布

銅矛・銅戈…九州北部中心に分布

※ 青銅器から見える社会：弥生時代中期には日本列島が大きく分けて3つの地域にまとまってきた

c 加茂岩倉遺跡・荒神谷遺跡の発見(島根県 1998年・1996年)

- ・加茂岩倉遺跡 … 39個の銅鐸が出土。同じ型で作られたと思われる銅鐸が近畿・四国・北陸でも発見されている。何を意味するのか？
- ・荒神谷遺跡 … 358本の銅剣と6個の銅鐸と16本の銅矛が出土。すべての種類が出土したことは何を意味するのか？

☆ 出雲にまつわる神話(素戔嗚の「八岐大蛇退治」や大国主の「国譲り」)や出雲大社に伝わる祭礼(式年遷宮など)との関係は？

⇒ 出雲とは？ ヤマト政権とは？

さまざまな説はありますがまだ謎だらけです…

★ ところで、弥生時代は「のどかな平和な時代」だったと思いますか？
次回までに、自分の考えを、理由とともに書いておきましょう。